

発表に際してのお願い（アクセシビリティ関連）

1) 色覚特性(色覚障害)・ロービジョン(弱視)の参加者への情報保障のお願い

色覚特性(色覚障害)並びにロービジョン(弱視)の参加者が視覚情報を支障なく受け取れるように、講演用スライドやポスター等を作成する際には色彩や配色、文字の大きさ等に十分配慮していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

色覚特性のある方は日本人の男性の20人に1人、女性の500人に1人、日本全体では約320万人いると言われており、その特性により見えにくい色彩や配色があります。色覚特性に配慮していただきますと、弱視の方もほぼ同様の配慮で見やすくなります。以下に配慮事項や参考資料を掲載いたしますので、資料作成の際にご参考になさってください。

〈配慮事項〉

1. 使用する文字は太字にする
2. 赤色は見えにくいので、注意を喚起する色としては使用しない。
3. 緑色または黒地の背景に赤色(またはその逆)の文字や図の使用を避ける。
4. 黒を背景とした白や黄色の文字は見やすい。
5. 白を背景とし、黒のヘッジ(囲い)をつけた白い文字は見やすい。
6. 判別が難しい色同士の配色を避ける。
例：「赤・緑」、「深緑・こげ茶」、「ピンク・灰色」、「灰色・水色」、「黄緑・黄土色」、「青緑・灰色」、「薄い緑・肌色」
7. グラフなどの図は、色のみではなく模様または文字などによる情報も加える。
8. グラフなどの図は、外周を黒でふちどり、その中に掲示する色同士の境目にも黒線を引く。
9. スライドの文字は太字で5行以内に大きく掲示すると見やすい。
10. スライドの背景デザインはなるべく連続して同一のものでそろえると目が疲れない。

〈参考資料〉

- 文部科学省「色覚に関する指導の資料」
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/2470/00004402/sikikaku.pdf>
- 日本生理学会「色覚異常者に配慮したカラースライドとポスター作成についての提言」
<http://physiology.jp/content/6201/>
- NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構
<http://www2.cudo.jp/wp/>
- 鳥取県「カラーユニバーサルデザインガイドブック」
http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/954753/CDU01_CUD20.pdf

2) 視覚障害等のある参加者への電子データご提供等の配慮のお願い

講演やシンポジウム等において、抄録に記載されていない内容がスクリーン投影されたり、追加の資料が配られたりする場合が多く見られますが、視覚に障害があるとこれらの内容にアクセスできないことがあります。もし視覚に障害がある参加者から電子データ等の提供に関する要望があった場合には、ご協力をお願いいたします。

また、ポスター発表や展示等で視覚に障害のある参加者を見かけた際には、積極的にお声掛けいただき、発表や展示の内容を言葉でわかるようにご説明いただけますようお願いいたします。

3) 聴覚障害のある参加者のための情報保障のお願い

日本特殊教育学会では聴覚に障害のある会員のために、一部のプログラムで情報保障を行っております。情報保障の質を担保するためには、手話通訳者や文字通訳者のスキルのみならず、講演者や発表者のご協力が欠かせません。

情報保障を設置することになった企画については、情報保障コーディネーターから連絡をさせていただきますので、下記についてのご協力をお願いいたします。

1. 大会1週間前までに、講演者、話題提供者、指定討論者等が当日に使用される資料の提供をお願いいたします。
2. 手話通訳および文字通訳の見やすさに配慮した会場設営にご協力をお願いします。
3. 通訳者席の確保にご協力をお願いします。
4. 文字通訳の場合は、適宜通訳の状況をスクリーンでご確認いただき、司会進行の調整をお願いします。
5. 視聴覚資料を使用される場合は、あらかじめ情報保障コーディネーターにお伝えください。